

News Clip

あ き ひと しょう こう にん
商きない工らす人びと ふくしま商・工・人

- P2 ヒストリーインタビュー
- P3 福島美味セレクトフェア
- P4 青年部・女性部だより
- P6 いいものmekke
ふくしまの「今」と
「魅力・元気・活力」を発信する
- P8 元気印!!ズームアップ
- P10 Information 商工会だより
- P12 掲示板

高品質な木造住宅用資材を供給する株式会社マルサン 代表取締役社長 前田英俊さんにお伺いしました。

ヒストリーインタビュー

「プレカット加工」による理想的な家づくりを追求
二本松市 株式会社 マルサン

2014.9.30
Vol.366



会社の沿革、事業内容について教えてください。

当社は昭和十年に桐材で下駄の製造を始めたのがルーツであり、その後、製材工場を設立し事業展開を図りました。三浦勝眞会長（前社長）が現在の工場東北プレカットワークスを設立して今年で二十五年目を迎えております。住宅用木材の製材、木造住宅部材のプレカット加工を行い、三四半世紀に渡って木材の加工に携わってきました。近年は、パネルの加工や金物工法のプレカットも行っています。創業以来、我が社が拘ってきたことは、「お客様第一」ということ、そして、「それを実現するために」「高品質な製品をつくり続けることです」。

プレカットとは？

従来、在来木造住宅の骨組みとなる土台、柱・梁等の部分は、大工職人がノコギリやノミを使って作業場で加工してから建設現場で建てるという方法で施工してきました。

プレカットとは、これらの部材をあらかじめ工場でカットし、様々な形状の仕口を高精度に加工する技術のことをいいます。現場で実施する加工は少なくすみ、あらかじめ工場で加工済みのものを現場で組み立てることによって、工期の短縮、建築現場の資材置き場や作業スペースの縮小、大工の技量によらない均質な加工などのメリットが得られるので、現在の

木造住宅建築において幅広く用いられています。

「ここだけは他社には絶対に負けない！」という点を教えてください。

木材加工はもちろんのこと、金物工法や在来パネルまで幅広く木材住宅用の資材を提供できる会社は、県内では当社のみであり東北地方でも数社しかありません。受注生産であるため、仕様がすべて異なり、図面に書かれているものだけでは読み切れない部分もあります。こうした個別の案件に対しても社員が責任を持って品質管理を徹底的に行い、安全性及び居住性に優れた製品の提供に努めています。

また、住宅産業はクレーム産業とも言われるくらい、お客様からの声が多数寄せられます。こうした声に対して一件一件、私と担当者がしっかりと対策を練り懇切丁寧に対応することで「株式会社マルサンに頼めば安心！」との評価をお客様からいただいております。

3・11の影響は？

「福島県で加工したものはいらない」と取引先から言われるなど風評被害が相次ぎました。震災後三カ月は受注が急激に落ち込み大変苦労しました。仕入れ先の宮城県石巻市の合板工場が震災で甚大な被害があったこともあり、仕入れができなくなり

当社も在庫の谷間で震災に遭ってしまったため、在庫なし、売るものなしの状態が続き、当社から離れていってしまったお客さまも多数おりました。ちょうど震災の十日前の3・11に

「現場吹付断熱材」の加工を新規事業として立ち上げることを会社として決定しており、震災当日の午後以最初の契約を結んだところだったので。その一時間後に震災が起きてしまいました。・（苦笑）前途多難な新規事業ではありましたが、現在では軌道に乗り、成長を遂げている事業です。また昨年から主にアパート向けに提供している2×4（ツーバイフォー）工法パネルも新規事業として取り組んでおります。震災という困難な状況に直面しても新規事業に挑戦し続ける勇氣と強い意志が復興に向けて大切なことだと思えます。

今後の経営方針及び将来どんな会社にしていきたいか教えてください。

高度経済成長期には悪質な木造住宅が増えたこともあり、木造住宅受注が大幅に減少しました。全国的に見て、平成元年から五年頃にかけてプレカット工場が増えたと同時に木造住宅受注が回復しました。製材事業は木材を単に提供するにとどまらず、プレカットによる工期の短縮や現場でのごみの減量化、耐震性が求められるなど木造住宅づくりは大きく変化しました。当社でも、工場での



企業概要

企業名 株式会社マルサン
 代表者名 代表取締役会長 三浦 勝眞（あたら商工会長）
 代表取締役社長 前田 英俊
 住 所 【本社】〒964-0313 二本松市小浜字鳥居町27-3
 【工場】〒964-0315 二本松市成田字柏崎214
 T E L 0243-55-2255(本社)
 0243-55-2626(工場)

木の廃材の再利用や緑化活動など循環型社会の実現に向け取り組んでおります。「明日の住宅産業を創造する」を当社の経営理念として「未来の家づくりモデル」を追求してまいります。

会社にとって大切なことは社員が幸せに感じるのだと思います。金銭面はもちろんです。が、仕事は自己実現の場であり、この会社で働いてよかったと思えるような会社作りをしたいですね。また、地方が衰退していく様子を見ると経営者としていたたまれない気持ちになります。が、地域の雇用確保に貢献すること、何か食いつまめたいです。地元の子供たちが成長した時に「株式会社マルサンで働きたい」と言ってもらえるようにこれからも気を引き締めて社員一同頑張ります。

福島美味セレクトフェアin大阪

日程 平成26年11月8日(土)～9日(日)
会場 イオンモールりんくう泉南(セントラルコート)
大阪府泉南市りんくう南浜3-12


主催:福島県商工会連合会

- 福島県産品物販 (30事業者以上より集めた県産品を販売)
- 県産品実演試食会 (福島の県産品の試食、県産品を使用したレシピの実演試食)
- ステージイベント (福島ゆるキャラ登場/キャンペーンクルー来阪/タレント試食ショー)
- アンケート調査 (福島に関するアンケートで粗品進呈)

ファミリー層が集うショッピングモールのイベントスペースを利用し、加工品・銘菓・地酒等の福島県産品のPR・販売や観光PRイベント実施し、福島県をよく知らないエリアの方へ(特に震災以降マイナスイメージしか持っていない方も関西では多い)福島県の良さ(美味しいもの)を知って頂き、風評払拭・販路拡大へ繋げることを目的とする。

また、福島県に対する支援への感謝の気持ちをお伝えすると共に、着地型観光としての送客に向けた旅行需要と話題性の喚起。

「福島美味直言」とは・・・



福島県商工会連合会が県内から7つの選定基準を満たした商品をセレクトし、作っている人たちの物語とともに「福島美味」として日本全国へアピールしていくという取り組み。「福島の美味しいものブランドプロジェクト」は福島県商工会連合会が自信を持ってお勧めする美味しい商品のマークです。



プロモーションの目的

背景①

比較的認知度が低い傾向にある関西圏・大阪での東北「福島県」の認知浸透及び販路拡大を図りたい

背景②

風評被害が払拭傾向にあり、福島県産品に関する安全性の高さが徐々に浸透してきている

食品の安全性の高さの訴求だけではなく、関西圏の消費者に選ばれるために次に訴求するのは
「品質・味・物語(ストーリー)」

福島美味の強み

豊かな自然をベースとして、水がいい、米がいい、気候がいいという好条件の福島県のおいしい食品や酒というプロダクツに加え、安全/品質/独自の魅力/福島ならではの/物語/デザインがプラスされ、生活者に求められている食品群

福島美味の持つ魅力が、消費者が求めているものと見事に合致することを体験を通じて訴求する

青年部と地域との“絆”感謝運動

東日本大震災をはじめ各地で発生した災害における復興支援活動等でも改めて確認された青年部及び地域における「絆」について確認・感謝するとともに、今後もさらに強化していくことを目的とし、商工会青年部員が「青年部員同士の絆」「青年部と地域との絆」をテーマとした「絆」感謝運動を昨年度に引き続き実施しました。

本県においては、活動テーマを「クリーンアップに関わる事業（清掃活動・除染作業等）」とし、県内各所において様々な活動をしました。

中でも大玉村商工会青年部では、年間を通じて多くのお客様が訪れる大玉村ふれあい広場の清掃活動を行いました。片平町商工会青年部では、毎年8月に開催される「うねめ供養祭」「かめまつり」の会場となる「うねめ公園」の清掃活動を行いました。船引町商工会青年部では、日本五大文殊の1つに数えられる「安倍文殊菩薩堂」周辺の清掃活動を行った。



片平町商工会青年部



大玉村商工会青年部



船引町商工会青年部

優良賞に吉田勇一さん(小野町)

～青年部主張発表東北・北海道ブロック大会の開催～



福島県代表主張発表者 吉田勇一さん

平成26年8月29日、秋田県秋田市「秋田ビューホテル」において、第21回東北六県・北海道商工会青年部員交流研修会並びに主張発表東北・北海道ブロック大会が開催されました。

主張発表福島県代表は、吉田勇一さん(小野町商工会青年部)。応援に駆け付けた多くの県内青年部員も息を飲んで見守る中、吉田さんは優良賞に輝きました。

恒例となっている応援合戦では、先崎慎也青年部長を中心に会場が一体となり小野町の名産や名所を紹介するパフォーマンスがされ、力強いエールが送られました。

発表は「青年部活動に参加して」と題し、昨年の「商工会うまいもんNo.1決定戦」にてグランプリを獲得した、おのまち小町アイスバーガーを青年部事業として製作するに至った経緯を吉田さん自身のそれまでの青年部経験と熱い気持ちを交えながら発表されていました。



応援合戦の様子

「復幸の花を咲かせよう!感謝と希望を胸に」

二瓶恵美子(滝根町商工会女性部)さん、 最優秀賞受賞し全国大会出場へ!

女性部主張発表東北・北海道ブロック大会in岩手大会

第14回東北六県・北海道商工会女性部主張発表ブロック大会が平成26年7月16日～17日、盛岡市「ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING」にて開催され、発表者と県女性連役員等を含め36名が参加しました。

大会では、本県から滝根町商工会女性部 部長の二瓶恵美子さんが「女性部活動と地域振興・まちづくり～探そう!地域の宝～」をテーマに出場し、東北北海道のブロック代表として10月に開催される全国大会(IN福岡)出場の切符を手に入れました。

震災後、風評被害の影響もあり落込んでいた地元観光産業や商店街を、女性部として少しでも街に活気を取り戻したい。

昔から地元で親しまれている味(カレーコロツケ)を食べてもらい元気を取り戻して欲しいという想いから始まった「女性部キムコロ(カレーコロツケ)事業」。商品を販売するにあたり、風味、大きさ、揚げ方など試行錯誤しながら取り組んできた様子等を発表しました。審査委員長からも内容、構成、表現力共に優れていたと講評がありました。

その他の研修においては、落語家 六華亭 遊花氏による「なまって 笑って コミュニケーション」と題した講演がありました。素朴で暖かみのある東北の方言を使いながら昔から女性は、コミュニケーション能力に優れていることなどユーモアを交えて講演されました。

翌17日は、岩手県内の観光PRと女性部員による「震災復興活動事例発表」が行われ研修会が終了しました。



主張発表者 二瓶恵美子(滝根町女性部長)



東北北海道ブロック代表として、全国大会への出場が決まりました!



講師:落語家 六華亭 遊花氏



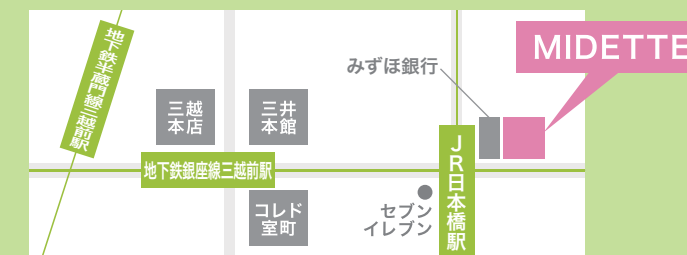
東日本大震災 復興応援プロジェクト版

2014.4.12 日本橋にオープンした「日本橋ふくしま館 MIDETTE」を紹介します。
 風評被害早期払拭のため、ふくしま製品の安心・安全を全国の消費者へ伝え、正しい理解を得ることにより地域資源を活かした魅力ある産品や観光地、観光資源等をPRし地域中小規模事業者の早期再建とふるさと福島再生を目的として**商工会連合会**と福島県が運営しています。ふくしまの「今」と「魅力・元気・活力」を見に是非お立ち寄りください。



日本橋ふくしま館 MIDETTE

「日本橋ふくしま館MIDETTE」は、日本橋室町に誕生した福島県の首都圏情報発信拠点です。
 愛称の「MIDETTE」には「見てね、来てみてね」といった「お誘いの気持ち」を福島県の方言的に表現しています。
 全国に誇る日本酒や果物、工芸品等の特産品の魅力をはじめ、季節ごとの観光情報、食の安全・安心を確保する取組等、復興に向かう「ふくしまの今」を発信していきます。また、市町村や生産者、各団体等による多様なPRイベントも開催しています。



- 東京メトロ銀座線・半蔵門線「三越前」駅A8出口より徒歩3分
- JR「神田」駅東口・南口より徒歩5分
- JR「新日本橋」駅2番出口より徒歩1分

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町4-3-16 柳屋大洋ビル1階
 TEL 03-6262-3977 FAX 03-6262-3978
 URL <http://www.midette.com>
 営業時間 平日 11:00~20:00 土日祝日 11:00~18:00 休館日 年末年始



上ノ県内産地から届く旬の桃を贅沢に使ったソフトクリーム「ベコピーチ」。桃の収穫に合わせて品種が変わります。この日は甘みが強く濃厚な味わいの「まどか」という品種が使われていました。ベコシリーズは季節限定でトッピングの果実が変わります。

***ベコシリーズ**
 会津中央乳業のべこの乳ソフトクリームを使用してつくる濃厚なソフトクリーム

中ノ週替わりで3種類のお酒が楽しめる飲み比べセットが500円。お酒に合う県内特産のおつまみが200円。
 平日は16:00~19:30(ラストオーダー)
 土日祝日15:00~17:30(ラストオーダー)

左下ノ全国放送(スマステーション テレビ朝日系)で紹介されて人気となった地鶏(しゃも)のご飯の素。
 右下ノ二年連続日本一の日本酒は特に人気あります。



イベントに合わせて、飲食コーナーのメニューが変わります。この日は、金山町の特産品でつくる赤かぼちゃのグラタンと夕顔の冷製スープ。



冷製スープの材料、夕顔。その大きさにびっくり!



企業組合おく愛ズの目黒理事長(写真左から二番目)とスタッフの皆さん。

福島美味コーナー

福島県の商工会会員がつくる美味しいけどまだあまり知られていない。でも全国的に大ヒットになる可能性がある商品ばかりを集めた福島県商工会連合会お勧めの逸品が揃うコーナー。



福島の美味しい情報がたくさん!



ふくしまの「おいしい」「すごい」を集め店内には、およそ2500アイテムの商品が並んでいます。



たくさんの商品が並ぶ中、欲しいものはたくさんありましたが、迷いぬいた未購入した商品たちです。

- 伊達鶏にんにく味噌
- 会津山塩
- 塩麹ドレッシング

金山町特産品の催事コーナー

イベントで出展していた金山町の(株)会津かねやまの皆さん。



金山町の特産品である赤かぼちゃの羊羹を試食。あまり甘くなく、あっさりした味です。美味しかったので玉羊羹とキャラクターのかぼまるくんのマスクットを購入。(何ともいえない表情に惹かれました)

編集後記

初めてMIDETTEを訪れました。福島にはこんなに魅力ある産品があるのだと改めて実感しました。取材当日はあいにくの雨でしたが、たくさんのお客さんにぎわっていました。近隣に飲食店が多く、食材に使ってくださるお店が多いと聞きました。取材中も、本日来店二回目という飲食店の方がいました。お米を使っているという方がいます。福島の美味しいがどんどん拡散されることを願います。

ズムアツツ。

元気印

県内4地域の商工会から、地域でがんばっている会員企業をご紹介します。
みなさんの経営のヒントになるお話もたくさんいただきました。
是非、ご感想を福島県商工会連合会までEメールにてお寄せ下さい。(f-wing@do-fukushima.or.jp)

県北

桑折町商工会

「笑顔・感謝から始まる コミュニケーション」



POPセンター福島

代表 川村 洋一氏

〒969-1652
福島県伊達郡桑折町成田字引地9
TEL 024-582-6736
FAX 024-582-5815
<http://www7.ocn.ne.jp/~popgenki/>

■POPは有効な販促プロモーション

手描きPOP広告、ビジネス絵手がみ、ラッピング等の販売促進の講習会やアドバイスで全国の商工会、商店街、事業所様にお世話になっております。

今までの状況が変わった震災の後、各方面のお客様から「元気で続いていますか?」という問い合わせを多くいただき、皆様のお気遣いに深く感謝するとともに、私はお客様に知っていただくための販売促進コンサルタントとPOP広告の仕事。あらためて「お声がけされること」のうれしさを再認識し、講習会でも「伝えること」の重要性を強調しております。

現在、業種を問わず問い合わせをいただく講座に、既存のお客様へのアピールにもつながる「ビジネス絵手がみDM」。書き替えが手軽に出来る「ブラックボードPOP広告」の講習会があります。活字を多く見かける中で、温かみを感じる手描きに注目が集まってきているようです。どちらも絵や文字が下手で…と描くことに尻込みされる方がいらっしゃいますが、特に絵手がみDMでは「簡単に、伝わる絵手がみを早く完成させること!」をモットーとしており、りんごの絵の入ったなら30秒で完成してしまいます。講習会に参加された方も簡単に描けるので、これなら続けられると持ち帰ってくださいます。



■笑顔・感謝から始まるコミュニケーション

私がお客様に絵手がみDMを出し始めて20年となります。こだわりは必ず季節感あるイラストを入れ、文章はなるべく簡単にまとめること。実際講習会や名刺交換などのアフターフォロー、お礼状、ご無沙汰している方へのアプローチなど、多いときは1日20枚以上を作成するときもあります。仕事の合間にスピーディに描き、継続するコツは長い間の積み重ねで身につく、今では描いて出すことが日課のようになってしまいました。そうして受け取った方からの「ありがとう」「嬉しい」などの反響を多く頂く度、お客様と繋がっている感触を得ます。

私にとってこの1対1のコミュニケーションツールは、手放せないものとなりました。

さて、今年さらなる自分発信の充実を図るためパソコン操作に少し自信のない私でしたが、安齊・丹治両指導員のアドバイスを受け「フェイスブック」をスタート。6月にはホームページリニューアルへのアドバイスもお願ひし、おかげさまで友人・知人達からの激励と講演会の問い合わせをいただけるようになりました。まだまだ未熟ではありますがぜひフェイスブック・HPも見ていただきPOPセンター福島をご理解いただけましたら幸いです。



県中・県南

鏡石町商工会

「世界でここだけの味を 追求して」



パン工房 陽だまり

高野 和幸氏

〒969-0404
岩瀬郡鏡石町中町173-6
TEL 0248-94-8361

■酵母作りからこだわって



鏡石町で「陽だまり」のように心も身体もほっとできる店を目指して開業し、4年半がたちました。添加物を使わないでパンが作れないかと考えていた時に自家製天然酵母と出会い、季節の果物や野菜から酵母(パンを膨らませるもの)をおこしてパンを作っています。自然に存在する菌の力で添加物を使わずに作る為、発酵が不安定でその日の気温・湿度など気象条件に左右されますが、いつも最高の状態を保てるよう妥協せず同じ状態の生地づくりを心がけています。パンの劣化は早く固くなりやすいのですが、体にやさしく、風味や味わいが豊かに仕上がるのが最大の魅力です。

■地域の魅力と商工会による支援

季節の旬な美味しい野菜や果物を使ったパンや、今は鏡石町の「田んぼアート」で収穫した米粉を使った商品の開発に力を入れています。米粉のもつ「お米の甘み」や「うま味」を味わえるパンを目指しました。1からのスタートであるパン屋開業は勉強不足の面もありますが、商工会より貴重なアドバイスや情報を提供していただいています。これからも支援いただきながら事業を更に展開させていきたいと考えております。



会津

会津美里町商工会

「エンジニアから陶芸の世界へ」



工房爽 草春窯
田崎 宏氏

〒969-6116
大沼郡会津美里町字瀬戸町3175
TEL 0242-56-3732

■エンジニアから陶芸の世界へ



草春窯の田崎宏さんは、家業に入る前はホンダのエンジニアという経歴の持ち主です。窯業とは畑違いのようですが、その経験は削りの技術に活かされ、工具も自らの手で用途に合ったものを制作しております。27才から10年間初代の技法を学び、白磁製品を専門に制作を行っています。当社の製品は、素地が本来持つ透光性のある青白さを活かし、絵付けを一切行わない製法で、当社最大の強みである「削り」の技術により厚みに変化をつけることによって生まれる陰影や透光、なまめかしいフォルムが特徴です。もちろん食器としての使いやすさにも徹底的にこだわり、指が触れる部分、唇が触れる部分等、細部にわたり利用者の心地よさを求めた製品作りを行っています。

この度、持続化補助金の採択を受け、福島県内はもとより東京都荻窪・神楽坂や埼玉県秩父市、滋賀県近江八幡市で個展を開催し、販路開拓に積極的に取り組んでいます。

■販路開拓へのチャレンジ

今まで、県内数カ所の専門店・雑貨店への卸や、年数回の個展での即売が主な販路でしたが、当社のような小規模企業にとって、新規顧客の開拓は大きな課題でした。

そのようななか、商工会の経営指導員から持続化補助金の案内を受け、チャレンジしてみることになりました。

補助金申請にあたっては、具体的な事業計画の策定の仕方等についてアドバイスをいただき、無事に採択を受けることができました。

今回の事業では、チラシやDM等の販促ツールを充実させ、過去に開催したことのない地域での個展を実施し、より広範囲の新規顧客開拓を目指しております。

ここ会津美里町本郷地区でも原子力災害による風評被害の影響は大きく、商工会には様々な分野できめ細かい経営支援を頂いています。今後とも産地振興のため持続的な指導をご期待いたします。



浜通り

内郷商工会

「地域一番のサロンを目指して!」



CUT CLUB VISION

代表 木村 秀典氏

〒973-8403
いわき市内郷郷町金谷7-1
TEL 0246-27-9559
営業時間/8:30~19:00
定休日/毎週月曜日、毎月第1火曜日
<http://waki-vision.com/>

■震災からの復興

オーナーである木村秀典さんは、宇都宮、横浜などでの経験後、平成9年にいわき市内郷にて創業。現在は、技術者2名とアシスタント2名の計4名を雇用し営業しております。このお店の特徴は、何と言ってもカット力、デザイン力を前面に押し出した特色のある理容店であり、常に新しいことを取り入れ、流行にも敏感に対応しており、その柔軟な姿勢が地元のお客様を中心に受け入れられております。

平成23年3月に発生した東日本大震災により事業所が破損し、営業するのに困難な時期がありました。中小企業等復旧・復興支援事業の申請書作成支援をきっかけに、スタッフと一丸となって復旧することができました。スタッフも若くて元気な企業であり、オーナーの木村さんも事業に対して意欲的な方なので、今後も様々な角度から積極的に支援していきたいと思っております。

平成23年3月に発生した東日本大震災により事業所が破損し、営業するのに困難な時期がありました。中小企業等復旧・復興支援事業の申請書作成支援をきっかけに、スタッフと一丸となって復旧することができました。スタッフも若くて元気な企業であり、オーナーの木村さんも事業に対して意欲的な方なので、今後も様々な角度から積極的に支援していきたいと思っております。

■持続化補助金への挑戦

商工会より小規模事業者持続化補助金の案内をいただき、HP等のリニューアル費用や設備の導入などに使えると思い、福島県商工会連合会主催の経営計画作成セミナーに参加しました。自分で経営計画書を作成できるか不安を抱えながらの参加となりましたが、経営指導員をはじめとした商工会職員の方々にサポートしていただきながら申請書が完成し、補助金も無事採択をいただくことができました。この補助金を活用して作業効率の上がる設備の導入が可能となったので、今後の事業展開が楽しみになりました。今後も、活用できる補助メニューがあれば積極的に申請していきたいと思っております。

将来に向けて明るく幸せなビジョンをお客様と一緒に描けるよう頑張ってお参ります。



Information

商工会だより

地域の特性を生かした まちづくりを目指して

三穂田町商工会



三穂田町商工会長
の佐藤秀宣です。

三穂田町は、郡山市の中心部より西南に約十二kmの所に位置し、昭和三十年に三和、穂積、川田の三ヶ村合併により、三穂田村として発足、昭和四十年の安積地方の町村合併により、郡山市三穂田町となりました。広範囲に散在する商工業者によって、構成されている農村地域であります。

この地域は市内有数の米どころであり、これを生かした六次産業化を通じた地域活性化事業に取り組んでいきたいと、現在検討中であります。

近隣には、温泉やゴルフ場もあり、一日ゆっくりと楽しめる施設があります。下守屋地区の笹原川には、約千本の桜並木があり、満開になる様子は見応えがあります。また十月には、富岡地区で仕掛け花火の唐傘行灯花火（からかさあんどんはなび）という郡山市指定重要無形民俗文化財に指定されている花火が見られます。

笹原川千本桜まつり

下守屋地区の笹原川堤防沿いに約二kmに渡り約千本の桜（ソメイヨシノ）があります。「千本桜」の愛称で親しまれ現在では、桜の名所として、地区内外から観光客が訪れるようになりました。当会においても、この機会をとらえ、四月の第三土曜日に親水公園を会場に「笹原川千本桜まつり」を実施して、地域振興の一つとしてイベントを行つていきます。また、静御前伝説にちなみ当時の道中再現を行つて祭りを盛り上げていきます。

富岡の唐傘行灯花火

毎年十月の第二日曜日の夜空に鮮やかな「富岡の唐傘行灯花火」が見られます。

この花火は、富岡地区の鎮守亀賀森神社（旧白山権現）例祭行事の一つで、神輿の神社還御を合図に打ち揚げられる仕掛け花火です。この花火の起源は、明治初期から唐傘行灯花火が始められ、当時は「雨乞い」と「豊作祈願」と「家内安全」のために行われたという伝承があります。

花火の特徴としては、角形の粹行灯にその上に閉じられた唐傘がとりつけられ、網火によって粹行灯部に火が移ると、花火が四方に飛び散り、その後導火で上部の傘部に移り、閉じられた傘が開き、光りが雨のように降り注ぐ仕掛けになっています。花火の打ち揚げ

は神輿渡御が神社に還御した午後八時頃になる。花火打ち揚げ場所近くで青年団によつて「打ち込み」の囃子花火の打ち揚げが続けられる。花火の打ち揚げ時間は約三十分程であるが、暗闇の中に光る光尖は美事であり、各地にみる観光花火とは違った趣きを味わうことが出来ます。

この地域だけの、趣のある花火を一度、ご覧になって下さい。



静御前道中



Information

商工会だより

ジャンボメニューを活用した 交流人口の拡大について

好間町商工会



好間町商工会長の
高橋孝光です。

好間町はいわき市のほぼ中央に位置しており、面積は市内十

三地区で一番小さく、人口約一万三千人、世帯数は約五千三百です。以前、炭鉱産業が盛んだった昭和二十八年当時には二万二千六百四十四人を数え「村」の人口では日本一だったこともありま

ジャンボメニューで街おこし

当会では平成二十一年より「好間ジャンボメニューで街おこし事業」を実施しています。当初は六店舗七メニューでスタートし、「いわき産業祭」「いわきフラインク」等のイベントへの参画や福島民報社・福島民友新聞社等県内各新聞社やラジオ局、テレビではNHK福島を始め県内各民報テレビ局や日

本テレビ・TBS・フジテレビ・テレビ朝日等の東京のキー局の取材を通してPR活動を進めていたところ、十店舗十三メニューまで参加店が増え交流人口も順調に拡大しました。ところが東日本大震災が発生し東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により市外からの来客とマスコミの取材が途絶えてしまいました。

風評被害の払拭



平成23年11月モニターツアー

そこで当商工会では「震災復興の声はいわきから」をスローガンに掲げ、「いわきへ行こう、ジャンボメニューを食べようモニターツアー事業」を計画し、首都



ジャンボメニューのバイキング(昼食)



炭鉱産業遺産「産業戦士の像」

圏から募った八十一名の参加者で震災の年の十一月に一泊二日で二回実施しました。参加者の皆さんには、「いわき市は放射線量も低く、普通に暮らしていることを友人知人に口コミで伝えて頂きたい」とお願いしたところです。後日ツアーに参加した日本画グループ「東風会の皆様から、被災した子供たちに元気を与えたいと再開を目前にした「いわき・ら・みユウ」のキッズコーナーへ二回にわたり絵本二百冊の寄贈がありました。

交流人口の拡大

平成二十四年度は、第二弾として川前町商工会の協力を得て、好間ジャンボメニューの他川



野菜の収穫体験(川前町)

前町で野菜の収穫体験・そば打ち体験を行い「いわきの里鬼ヶ城」に宿泊するツアーを実施しました。

平成二十五年度は第三弾として久之浜町商工会と四



そば打ち体験(川前町)



炭鉱産業遺産「大畑吊り橋」

倉町商工会との協力を得て、浜風商店街や道の駅よつくら港を巡る買い物ツアーで被災地支援を三回実施しました。



浜風商店街(久之浜町)

今年度も七月から毎月末の日曜日に計三回、内郷地区・久之浜大久地区を巡る日帰りツアーを実施しました。

震災後ジャンボメニュー参加店が二店減つてしまいましたが昨年十二月には一店加盟し、現在九店舗十二メニューで活動しております。このような活動が報道機関の目に留まり再び取材を数多く受けるようになったところです。最近では、七月にもまねタレントのこっけさんが来町され取材されたNHK・BSプレミアム「きらり！えん旅」の放送が九月にありました。当商工会の活動が、地域の活性化を図り、風評被害の払拭や交流人口の増大に少なからず貢献できたものと自負しております。今後も引き続き関係団体と連携しながらいわき市の観光交流人口の増加をめざし、尽力したいと考えております。

『日本橋ふくしま館～MIDETTE～』 福島美味コーナー商品募集

本会では、首都圏における本県産加工食品の情報発信と原子力災害に伴う風評被害の払しょく等を目的として今年4月にアンテナショップ『日本橋ふくしま館』をオープンし、同ショップ内商工会ブース『福島美味コーナー』の展示販売商品を募集しております。

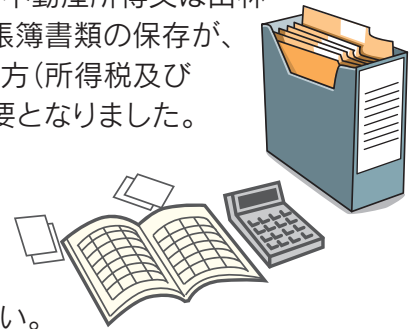
- ◆出品条件 福島県産の加工食品で放射性物質検査を受検し、また、製造物責任保険に加入していること等
- ◆募集期間 随時受け付けております
- ◆利用期間 原則3ヶ月間
- ◆その他 詳細については最寄りの商工会までお問合せください

平成26年1月から、記帳・帳簿等の保存制度の対象者が拡大されました

個人の白色申告者のうち前々年分あるいは前年分の事業所得、不動産所得又は山林所得の合計額が300万円を超える方に必要とされていた記帳と帳簿書類の保存が、平成26年1月からは、これらの所得を生ずべき業務を行う全ての方(所得税及び復興特別所得税の申告の必要がない方を含みます。)について必要となりました。



記帳・帳簿等の保存制度や記帳の内容の詳細は、国税庁ホームページ(<http://www.nta.go.jp>)に掲載されていますので、ご覧ください。
詳しくは、最寄りの税務署にお問い合わせください。



個人事業税の課税時期の変更

県では、例年8月に個人事業税の納税通知書をお送りしていますが、以下の市町村に住所がある方への今年度の個人事業税の納税通知書は、所得税の申告期限延長措置終了に伴い、12月12日にお送りする予定です。

1 対象市町村

田村市、南相馬市、川俣町、広野町
楢葉町、富岡町、川内村、大熊町
双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村

2 納期限

第1期分 納期限 平成27年1月5日
第2期分 納期限 平成27年3月31日

なお、税額が1万円以下の場合、第1期分で全額を納めていただくことになります。

- 複数年分を今回申告された方は、申告年数分の納税通知書をお送りします。
- 事業用資産や住宅・家財に損害を受けられた方の減免制度や課税免除制度、納税等のご相談は、最寄りの地方振興局へお問い合わせください。

問い合わせ先

相双地方振興局	課税第一チーム	☎0244-26-1126
県北地方振興局	事業税チーム	☎024-523-4698
県中地方振興局	事業税チーム	☎024-935-1251
県南地方振興局	課税第一チーム	☎0248-23-1517
会津地方振興局	事業税チーム	☎0242-29-5251
南会津地方振興局	課税チーム	☎0241-62-5213
いわき地方振興局	事業税チーム	☎0246-24-6032
税務課		☎024-521-7068